

2学期終業式 校長の話 平成26年12月22日（月）

▼大つごもり



▼終業式の様子



今日この作品が廊下に展示してあったのを知っていますか。

<大勢の手が挙がりました>

この絵を見て、どんなことが分かりますか？

<子どもたちからは、「雪が降っている」「鐘を撞いている」「月がある」「お寺がある」「手を振っている（さよならをしている）」「辛い、苦しい、悲しい、涙がある」等の発言がありました。>

さすが、美守っ子たちは、絵を読み取ることができますね。

1年の最後の日は大晦日ですが、「大つごもり」ともいいます。年越しの夜は、寝ないで起きていることから「除夜」と呼ばれるようになったそうです。除夜の鐘は、多くの寺で108回撞かれます。108回のうち107回は旧年（12月31日）に、残り1回を新年（1月1日）に撞くことが多いようです。

この絵では、「辛さ、苦しさ、悲しさ、涙」を全て今年という袋に詰め込み、さよならをしている子どもたちを描きました。

新しい年を迎えるため、優しい人、温かい人になる準備を始めましょう。

みんなで幸せをつくっていきましょう。